

初級編・中級編との違い

カリキュラムコーディネーター養成講座＜評価編＞は、これまでの研修会参加者から、実際の改善に繋げるための具体的な手法をもっと学びたいという声を受け、開催することといたしました。
評価編では、初級編で学んだ理論に加え、実際に改善に繋げるための実践手法を学んでいただくことを目指します。
初級編を未受講の方も是非ご参加ください。

事前学習

本研修会は、事前視聴課題と、事前確認課題の2つがあります。事前視聴課題については、6月4日金曜日を目途にご案内します。事前確認課題につきましては、研修会当日までに行っておくよう、お願いいたします。

事前視聴課題

卒業時の学習成果の評価

中島英博

卒業時の学習成果は、カリキュラムの評価と改善の主要な情報源です。卒業時の学習成果を評価する際に、制度面や運営面でどのような工夫が必要なのかを理解します。

アンケート調査による評価

中島英博

学習成果を把握する方法の1つとして、アンケートがよく使われます。便利である一方で制約も多いアンケート調査について、企画面や実施面でどのような工夫が必要なのかを理解します。

事前確認課題

所属組織のアセスメントポリシーの確認

当日までに所属組織のアセスメントポリシーが存在するかどうかを確認し、存在する場合は入手の上、当日お手元にご準備いただくと共に、内容の確認を行っておいてください。

所属組織のカリキュラムに関する評価・改善活動の状況確認

研修会の中では、所属組織の状況に合わせて、カリキュラムの評価・改善活動を更に前に進める方策を考えます。所属組織内で、どのような評価・改善活動が行われているか、各学科の状況把握をお願いします。

参加申し込み

次のURLよりお申し込みください。

お申込み

<https://www.jaedweb.org/cc1>

問合せ
メールアドレス

info@jaedweb.org

参加費

1人 20,000円

振込先

三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395 ㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿



＜含まれるもの＞ 当日資料代金 / 事前研修費用 / 6月18日19日の研修費用

日本高等教育開発協会（JAED）

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: info@jaedweb.org

第1回

- 学習成果の評価から教育力向上に向けて動き出す -

カリキュラムコーディネーター 養成研修会＜評価編＞

受講証
発行

～ 組織がチームとして教育に取り組むための仕組み作り ～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。
本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 開催日程 2021年6月18日金曜日10:00から 19日土曜日17:00まで
- 対象者 カリキュラムまたは学習成果の評価・改善にかかわる教職員
- 開催方法 オンライン（Zoom）

定員 50名

（事前課題があります。詳しくは最終ページをご参照下さい。）

【主催】日本高等教育開発協会 【共催】株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

ここ数年で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化というキーワードに対する認知度が高まってきました。

一方で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化のためにデータを集め始めたものの、そのデータをどう活用すればカリキュラムの改善に繋がるのかよく分からず、実質的な改善議論にはまだ繋がっていないというお話を伺うことも増えてきました。

カリキュラムのアセスメント方策は、一定の答えがあるものではありません。所属組織の状況に応じて、事務組織の負担とのバランスを考えながら組み立てる必要があります。

本研修会では、カリキュラムの評価・改善に関する取り組みを機能させ、実質的に効果のあるものとするための実践手法を、理論と事例の両面からお伝えします。

認証評価に向け準備の必要な高等教育機関の方はもちろん、受審を終えた高等教育機関の方も、カリキュラムの評価・改善活動の実質化を図り、所属組織の教育力を継続的に高めたいと願う皆様は、是非ご参加ください。

このような方が対象です

- カリキュラムまたは学習成果の評価・改善に関わることになったが、まだ何から手を付けていくと良いか分からない方。
- どのようなデータを、どのように集めておくと、運用の手間を抑えつつ、適切な評価・改善に繋がるのか、収集すべきデータの選択肢を広げておきたい方。
- 所属組織の教育力を継続的に高めるため、評価・改善の取り組みを学内に定着させたいと願っているが、どのような可能性があるか、他大学の事例を知りたい方。

本セミナーは Zoomを使用してオンラインで開催します。

以下の環境で参加できることをご確認の上でお申し込みください。

- ・カメラ・マイクが利用可能で、かつ高速なインターネットに接続された PC 等が用意できること。グループワークを行いますので、1人1台をご準備ください。
- ・発言等ができる静粛な環境でご参加ください。（内蔵マイクよりも雑音が入りにくいヘッドセットを推奨）

到達目標

1. 学生の学習成果にもとづいてカリキュラムを評価する意義を説明することができる。
2. 学生の学習成果の評価の計画、実施、分析、改善の具体的な方法を身につけることができる。
3. 所属組織における学生の学習成果の評価に関する課題解決の方法を提案することができる。
4. 学生の学習成果の評価に関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学び合う文化づくりに貢献できる。

講師



中井俊樹
日本高等教育
開発協会 副会長
愛媛大学 教授



中島英博
日本高等教育
開発協会 正会員
立命館大学 教授



竹中喜一
日本高等教育
開発協会 正会員
愛媛大学 講師



桑木康宏
日本高等教育
開発協会 正会員
学びと成長しくみ
デザイン研究所 代表

参加者は本研修会を通じ
所属組織における
カリキュラム評価・改善の
取り組みを
より効果的に機能させる
ための方策を考え
アクションプランとして
まとめる作業を行います

プログラム

研修当日 ◆ 6月18日金曜日

開場 9:50

オリエンテーション <10:00 - 10:10>

10:10 - 11:00

カリキュラム評価の意義と方法

～ カリキュラム評価における主な論点とは ～

中井俊樹

大学におけるカリキュラム評価とはどのようなものなのか、そしてなぜカリキュラム評価が求められるのかを明確にしたうえで、カリキュラム評価を進める際の主な論点を理解します。

11:15 - 12:15

所属組織の評価の特徴と課題

～ 自大学の課題確認と参加者同士の状況共有 ～

桑木康宏

評価・改善の活動がうまく機能しない原因はいろいろ考えられます。チェックリストを元に、所属組織における課題を把握すると共に、他の参加者と、所属組織の状況を共有します。

ランチタイム

<12:15 - 13:15> 各自食事。

13:15 - 14:05

評価の指針の明確化と実効性を高める工夫

～ 評価・改善の取り組みを機能させるための実践事例 ～

桑木康宏

評価の指針は作るよりも、機能させることが難しいようです。複数大学で実績のある評価の指針の参照モデルと、これを機能させるための実践から出てきた工夫をご紹介します。

14:20 - 15:10

成績や学籍異動のデータに基づく評価

～ 教務・学務部門が取り扱う既存のデータを活用する ～

竹中喜一

在学中の成績など教務・学務部門が取り扱う既存のデータに基づき学習成果を評価し、学習支援や卒業・中退の予測などに活用する方法について理解します。

15:25 - 16:15

カリキュラム評価と改善の組織体制

～ 基盤となる制度と運営のしくみとは ～

中井俊樹

多くの教職員が関わるカリキュラムを評価し改善するのは容易ではありません。カリキュラムが評価され改善されるためには、どのような制度面や運営面での工夫が必要なのかを理解します。

16:30 - 17:30

所属組織の課題解決案の作成

～ 評価・改善活動をより効果的に機能させるためのアクションプランを考える ～ 桑木康宏

研修会で学んだことを元に、所属組織の課題を特定し、評価・改善の活動をより効果的に機能させるために必要なアクションプランを考えます。また、考えたことを他者に説明する機会を通じて、自分の立てたアクションプランの妥当性を自己点検します。

研修当日 ◆ 6月19日土曜日

組織の課題解決案に関する個別面談

<9:00 - 12:00 1名10分程度>

作成した課題解決案を元に、希望者を対象に講師が個別に面談を行います。参加者は、自分の該当する時間のみオンライン接続します。

13:00 - 13:30

<カリキュラム評価の実践事例1>

学生の声をカリキュラム評価に反映させる

竹中喜一

カリキュラム評価を行うにあたっては、学生の視点を踏まえることもできます。実際の事例をもとに、学生の声をもとにしたカリキュラム評価を行うための実践的な方法を身につけます。

13:30 - 14:00

<カリキュラム評価の実践事例2>

カリキュラム全体を見渡した設計・評価・改善の取り組み

桑木康宏

カリキュラム評価を機能させるためには、設計、評価、改善のしくみ全体を、体系的に運用する必要があります。体系的に運用するとはどういうことか、実践事例をご紹介します。

14:15 - 16:50

所属組織の課題解決案の修正と共有

～ 全体を通じた質疑応答と合わせて ～

講師全員

作成した所属組織の課題解決案を他者と共有することで、計画のブラッシュアップを行います。また、研修全体を通じた質疑応答を行います。

研修を終えて

<16:50 - 17:00>